



まむしに注意!!



(財)日本蛇族学術研究所、他 より抽出

体の色彩や斑紋などによる判別

褐色ないし赤褐色(茶色ないしこげ茶色)で、丸い大きな斑紋が体の左右に1列ずつ並び、その斑紋の中心に暗色の点がある。模様は銭形と言われるように、丸書いて点と覚えておく。他にない模様。

眼では虹彩の下半分は黒っぽく、眼の後ろに太い黒い線が続く。

体はほかのヘビに比べて太短くずんぐりしている。尾は短くて急にくびれる。全長40~65cmで、メスの方がやや大きい。

頭が三角形とよく言われるが、それほど三角でもない。



牙痕(咬まれた傷あと)からの判別

針で刺したようなあとが1つまたは1cm前後の間隔で2つある。まれに引っかき傷として残ることもある。

症状からの判別

咬まれた局所を中心に痛みと腫れが広がる。(まれに軽度の場合もある一咬症の診断) 痛みや腫れはほとんどないが、血圧の低下や出血傾向が見られる。

毒蛇咬症ではヘビの判別が非常に重要であるが、夜間の草むらで咬まれた場合にそれがヘビかどうか確認できないケースも多い。

そのようなケースでは患者がヘビを確認していないため、あまり進行していない状態ではドクターも小さな刺し傷を虫刺されと誤診してしまうことも多い。

そのためマムシ咬症の治療が遅れ、腫脹が拡大して重症化してしてしまうことがある。

また、比較的よくマムシを見て知っている農家の人でも、いろいろなタイプのマムシがいるため、判別を間違っている場合もしばしばある。そのため病院で間違った治療を行うことになる。このような判別間違いは多く、毎年ヤマカガシ咬症と診断されてヤマカガシ抗毒素の依頼があるが、そのほとんどが誤診である。

マムシ咬症

一般には腫脹と疼痛が見られ、腫れの進行に伴って出血傾向や急性腎不全を起こしてくる。しかし、まれに腫れがわずかで、咬傷後数時間で全身性の出血が現れる症例がある。このような症例では急激に血小板が減少し、皮下出血だけでなく激しい消化管出血を起こし危険な状態に陥る。

マムシ咬症では、腫脹や疼痛が軽度であっても重症化するケースがあり、毒が急速に血管に入った時には、毒の血小板凝集活性が急激に作用し、血小板が短時間で減少する(1時間以内に1万以下まで減少)。そのことによって顕著な出血傾向を引き起こす。

このような症例がしばしばヤマカガシ咬症と間違われる。しかし、ヤマカガシ咬症ではフィブリノーゲンの減少が主体であり、マムシ咬症では血小板の減少が主体であるため、経時的に血

マムシ咬傷による症状

牙痕は1cm前後の間隔で2こ見られることが普通ですが、時には片方の牙しか刺さらなかったようなときには、1こしか見られません。

しばらくすると咬傷部位を中心に腫れと痛みが広がってきますが、進行の速さは入った毒の量や部位によってかなり違います。

手を咬まれて腕全体に腫れが広がるまで、数時間から2日とケースによってかなり違います。いずれにしても腕全体が腫れるようなケースは重症になる可能性は高いのですが、腫れの進行の遅い症例ではその診断が難しいこともあり、経過を観察している間に重症化してしまうこともしばしばあり問題になります。

咬まれたときの応急措置と注意事項

へびに咬まれた時には、先ずマムシであるかどうかをへびや牙痕などで確認します。
 マムシであれば傷口から毒液を吸い出すか水で流しながら絞り出します。
 ただ、口ではかなり強く、また続けて吸わければなりません、口ではあまり吸うことはできません。毒はタンパク質なので飲んでしまっても問題はありますが、唇が少し腫れることもあります。
 へびやハチの毒は速く拡散しますので、できるだけ早く吸引しなければ効果はありません。逆に吸引により毒を少しでも体外に出すことができれば、それだけ重症化を防ぐことが期待できます。
 また、毒の吸収拡散を遅らせるために、心臓に近い部位、指の付け根などを縛ることがあります。確かに毒の吸収を遅らせることはできますが、一般の人はその強さがわからず、強く縛りすぎて血行を完全に止めてしまう恐れもあるので、今では緊迫することはおすすめしません。以前

医療機関における適切な治療

年間マムシにより10～20人もの人が死亡しており、また、急性腎不全などを起こす重症例は恐らくその何倍もあります。これは医療機関における処置が適切でないことも1つの理由です。以前は血清を筋肉や皮下に投与することが多く、これでは非常に効果が低く、静脈内に投与しなければ効果は期待できません。
 投与までの時間が遅くなるとそれだけ血清の効果も低くなります。血清を使っているのに重症になったり死亡するのはこのような理由からです。
 血清を使わない時には、急性腎不全を起こしたり全身性の出血や心不全、呼吸不全を起こして非常に危険な場合もあります。さらには回復に数ヶ月もかかることもあります。
 また、足の腫れが強いと1ヶ月以上全く歩けなかったり、退院してもむくみやしびれが残り、長く立っていられないために仕事への復帰が困難な場合もあります。
 早期に適切に血清を使っていれば重症化することはほとんどありませんし、短期間で回復しま

毒蛇咬症の診断

	ヤマカガシ咬症	重症マムシ咬症1)	
腫脹	-	軽度～中程度	強度
疼痛	-	-～+	+++
出血傾向	+++ (歯肉、注射痕、出血斑、消化管)	+++ (注射痕、出血斑、消化管)	-～+++ (数日後血小板が減少してから)
凝固系など	フィブリノーゲンが減少 血小板は後で減少 線溶活性が亢進	血小板が数時間で急激に減少	血小板が腫脹に伴って徐々に減少
血圧低下	-	急激 (受傷後数時間)	稀 (腫脹が進行後)
尿	ヘモグロビン尿、(血尿)	ミオグロビン尿、(血尿)	ミオグロビン尿、(血尿)
その他	一過性の激しい頭痛、 出血傾向、DIC、急性腎不全	複視、呼吸不全、心不全、 急性腎不全、(DIC) 多臓器不全	複視、急性腎不全、呼吸不全、 心不全
死亡まで	数日～10日 (脳内出血症例)	1, 2日	3日～1ヶ月

1):ここでは重症例のみに限定しており、それを腫れの程度で2グループ分けています

マムシ咬症のGrade分類

Grade :	受傷局所のみ腫脹
Grade :	手首または足首までの腫脹
Grade :	肘または膝関節までの腫脹
Grade :	一肢全体に及ぶ腫脹
Grade :	一肢を越える腫脹、または全身症状を伴うもの

これらはピーク時の腫れにより分けたものであるが、腫れの広がる速さは、症例によりかなり異なる。数時間で腕全体に腫れが広がるものから、2日近くかかるものまでかなり差があるので、咬傷後すぐには重症化するかどうかを判断するのは非常に難しい。

(財)日本蛇族学術研究所 にお問い合わせる

電話 0277-78-5193. Fax 0277-78-5520

8:30～18:00は 0277-78-5193 へ、それ以外の時間は左の番号にかけて、留守番電話で案内している緊急の連絡先(堺 淳)へかけてください。緊急の場合のみ夜中でも受けております。

または日本中毒情報センターにも登録されていますので、そちらでも緊急の連絡先を聞くことができます。緊急の場合は遠慮なくご連絡ください。